

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 平成21年 03月 02日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670300682
法人名	社会福祉法人 幸伸会
事業所名	グループホーム とも
所在地	鹿屋市田崎町1307-1 (電 話) 0994-42-6860
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成21年2月17日

【情報提供票より】(21年 1月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 10.2 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4)利用者の概要(1月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	6 名	要介護4	5 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	80.2 歳	最低 61 歳	最高 90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	前田内科、西の原歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大隅半島の南部に位置し、温暖な気候と人情味あふれ、自然環境に恵まれている。ホーム内は天井が高く広々としたダイニングはこころ和まされ、入居者だけでなく、来訪者も自然と和やかな雰囲気に取り込まれている。さらに、町内会に入会し奉仕作業や催事、班会に積極的に参加するなど地域とのつながりを大切にしている。また、一人ひとりの利用者にホームの中で本人の希望を中心とした役割があり、スタッフと共に支えあって過ごしている。ホーム理念でもある、「ともにいき ともに楽しむ ともの家」がスタッフ全員で共有され、スタッフが明るく、楽しそうに支援をしているのが印象的で、理念が日々のケアの実践に結びつき、管理者・スタッフも家族のように接し支援の向上に結び付けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者をはじめ職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で取り組んでいる。前回の改善課題への取り組みも計画的に行っており、課題については概ね改善されている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はすべての項目について研修会を通して全職員が学びながら検討し、前回と照らし合わせながら作成し、全員で確認している。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の町内会長、民生委員等の地域の代表や鹿屋市職員、家族が運営推進会議に出席しており、それぞれの立場からの意見をもらい、運営に役立っている。さらに日常的に市の担当部署への訪問、地域包括支援センターとの連絡・相談を通して、問題解決に向けて協働して取り組んでいる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談窓口については玄関に掲示し利用開始時には文書により家族にお知らせしている。また、職員が苦情等を把握した時には管理者や他の職員と共有し解決を図っている。利用者の暮らしぶりは、定期的に書面をもって報告している。金銭管理は、定期的にお便りや訪問時に報告されており、個々に合わせた報告がなされている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入会し奉仕作業や催事に積極的に参加したり、回覧板を回すなど地域との交流を行っている。、近隣の幼稚園との交流会や中学校の福祉体験の受け入れを通して交流を図っている。地域の方が犬の散歩に立ち寄りたり、季節の野菜をいただくこともあり日常的にホームに立ち寄りてもらえる関係もできている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が安心して生活できる家づくりを目指して地域と密着したホーム作りを理念としている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時に管理者より理念について詳しく研修を受け、理念に基づき利用者への支援を実践し、作成された理念が職員や来所者の目につくように掲示を工夫している。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し催事に積極的に参加したり、回覧板を回すなど、近隣の幼稚園、中学校等との交流を図っている。地域の方が犬の散歩に立ち寄ったり、野菜を持ってきてもらうなど日常的にホームに立ち寄ってもらえる関係もできている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者をはじめ職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で取り組んでいる。前回の改善課題への取り組みも計画的に行っており、課題については概ね改善されている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の町内会長、民生委員等の地域の代表や鹿屋市職員、家族が出席しており、それぞれの立場からの意見をもらい、運営に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に市の担当部署や地域包括支援センターからの訪問が主で、運営推進会議での意見・情報交換やホームの空床状況のお知らせや地域からの相談の連携等はまめにを行うようにしており、問題解決に向けて協働して取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりは、定期的に書面をもって報告しており、職員の異動時にはそのつど挨拶を行っている。金銭管理は、定期的にお便りや訪問時に報告されており、個々にあわせた報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口については玄関に掲示し利用開始時には文書により家族にお知らせしている。また、職員が苦情等を把握した時には管理者や他の職員と共有し解決を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解しており、職員の交代がある場合は利用者にも説明し混乱しないように引継ぎを十分に行いスムーズに移行し、利用者へのダメージを防いでいる。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会を月に1回行い、経験年数に応じた職員向けの研修も計画的に基づき実施している。施設外研修については職員に紹介し、受講費用は事業所が負担するなど、事業所としての配慮を行っている。また、職員会議や申し送りの中で、研修報告を行うとともに職員の質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会に加入し、職員が交代で交流会へ参加している。その機会を利用して、法人内のホーム以外のホームの職員と交流する機会が確保でき個別の交流も計画されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にできるだけホームの見学をしてもらい、見学に来れない方にはスタッフが出向いて顔馴染みの関係を作るような取り組みをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節の野菜を職員と利用者が一緒に栽培したり、料理の下ごしらえをする中で共に過ごす関係を築いている。ラジオ体操も頻繁に行われており、一緒に活動したり、楽しんだりする機会を多く設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの話を傾聴し、日々のかかわりの中で本人のつぶやきを拾い、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族への報告の中で家族と話し合い、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に職員や家族と検討し、利用者主体の介護計画を作成している。職員の気づき、利用者・家族の意見の確認は介護計画作成時だけでなく日常的に行うようにしている。主治医とは日常の記録を通して必要な部分の情報の提供を行っており、丁寧な連絡が取られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の意見、要望を取り入れ、状態の変化が生じた場合、そのつど見直しを行い、毎月の会議で介護計画の見直しの必要性を全職員で検討し、定期的に評価を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や外泊支援、個別買い物支援を行っており、家族宿泊時は食事を提供している。また、毎年、班会に職員が出席し、事業所としての役割や認知症に対する理解を深めていただけるよう働きかけを行い、事業所として地域への貢献を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大事にしており、定期的な受診、通院介助の対応がなされている。利用者及び家族の希望を大切に、その上で協力医療機関の支援をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針をサービス利用開始時に家族に説明し同意をもらっている。また、家族・職員で話し合う場を作り、勉強会を行い情報を共有している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等は外来者の目に触れないように事務室に保管している。利用者への日頃の声かけについては個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや希望を取り入れ、その日の体調や気分に合わせて支援ができるよう努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の希望を聞いたり、食欲を引き出すなどの工夫をしている。また、旬の食材を利用し、下ごしらえを一緒に行うことで食への興味を持ってもらうよう努力している。食事は職員も一緒に会話を交えながら楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決まった入浴日があるが、それ以外の日でも入浴やシャワーなどの対応ができる。入浴を嫌われる方には無理強いせずに時間を変えるなど、個別に対応し、一人ひとりの時間をゆつくりととり入浴の楽しみを感じてもらえるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、季節を感じるための畑作業(野菜類)・家事(ゴミ捨て、洗濯等)や趣味(絵画、はがきづくり、漬物づくり)を楽しんだり、お手伝いをするなどでそれぞれの役割を見出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に2、3回のドライブや希望により自宅までのドライブを行っている。天候に応じて個々の買い物や天気の良い日は散歩など日常的に屋外に出るほか、庭の木の手入れをしたり、法人内行事や町内会行事等への参加を支援している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。職員は、利用者の状態を把握し、利用者一人ひとりのサインを見逃さず、さりげなく一緒に散歩に出るなどの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練を含め、定期的な訓練を行っており、消防関係者や地域の協力を得ているが、非常時の備蓄は十分とは言いがたい。	○	火災や地震、水害等の発生に備えた食料や飲料水等の備蓄を準備していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて個人の状況に適した食事の量や形態を管理栄養士の指導を受け提供を行っている。嚥下に支障のある利用者には、ソフト食等の工夫を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく家庭的で、生活感や季節感が感じられる空間となっている。利用者には、和室やソファなど思い思いの場所でくつろげる配慮がなされている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人のものが持ち込まれているひともいけば、シンプルな部屋もある。部屋には写真やお便りなどが飾られ居心地よく過ごすことができるような配慮が感じられる。		